



平成27年10月16日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（10月13日観測）

10月13日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

火砕丘にある火口からの噴火が再開し、3～5分毎に爆発を伴って灰色の噴煙が放出されていた（図1、2）。これまで火口周辺や火砕丘斜面に広範囲に分布していた黄色の火山昇華物は噴火による噴出物によって被覆され、前回（9月16日）の観測時に比べて、火山昇華物および火山ガスによる噴気帯の範囲が減少していた（図3、4）。

火砕丘北東斜面下からの溶岩の流出が継続しており、溶岩流が繰り返し積み重なったために溶岩原の標高が高くなっている。この結果、これまで存在していたホルニト状の噴気孔は、溶岩原に埋没（一部は崩壊）して明瞭な地形として認められなくなった（図3、4）。現在、溶岩はこのホルニト跡付近から流出し（図5）、北方および西方の2方向に流れていた（図6）。なお、海岸線に到達した溶岩流はなく、西之島の海岸線に顕著な変化は認められなかった。

西之島の周囲には青白色の変色水域が海岸線に沿って幅約200～500mで分布していた（図7）。

西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

島の上空に雲が存在し、正確な全体の形状や大きさについてデータは取得できなかった。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火口山腹及び火口縁にあった噴気帯が消滅し、それに伴って先月まで顕著だった昇華物がほぼ消えている。

火砕丘からガスの染み出しが止まり、再び火山ガスが山頂火口から放出されるようになったために、火口内で爆発が再開したものと考えられる。

溶岩の流出は停止しておらず、流出口の標高が高くなっていることからマグマの供給は現在も続いていると推察される。」

とのコメントが得られた。



図1 火砕丘の火口からの噴火（10月13日撮影）

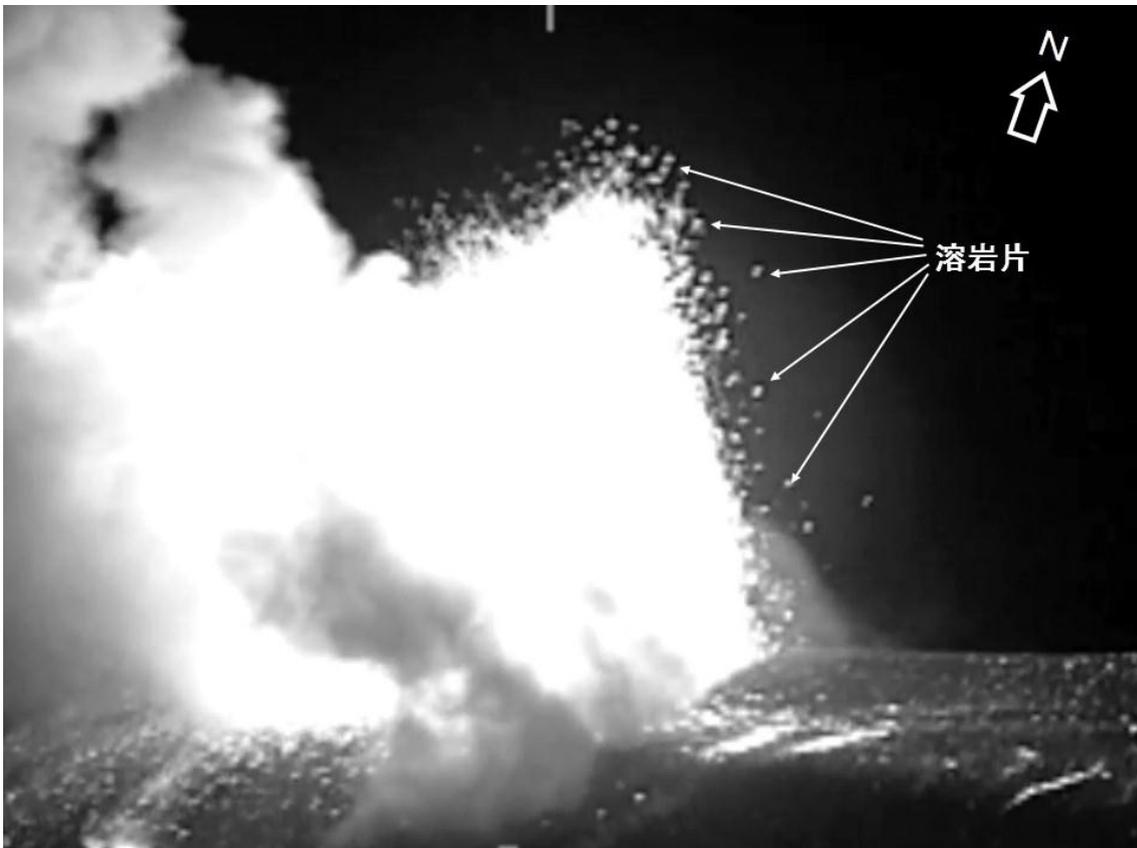


図2 火口からの溶岩片の放出（10月13日撮影）
（熱赤外線画像：白色であるほど高温であることを示す。）



図3 北東側から見た火砕丘と溶岩原 (10月13日撮影)

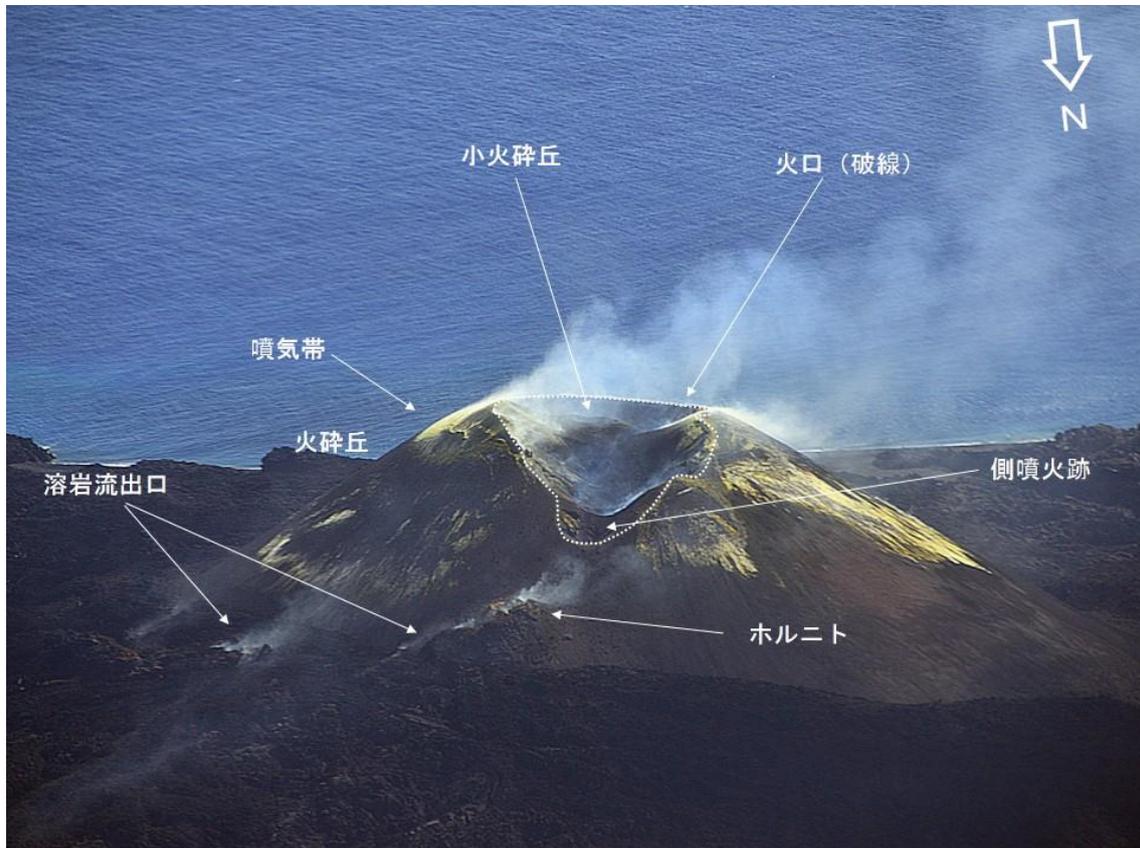


図4 前回の観測時の北東から見た火砕丘付近 (9月16日撮影)



図5 溶岩流出口と西方への溶岩の流出 (10月13日撮影)



図6 熱赤外線画像でみた溶岩の流下 (10月13日撮影)



図7 北西からみた西之島周囲の変色水域の分布（10月13日撮影）